

# 令和7年度 都城市立木之川内小学校 学校運営協議会 実施報告

## 1 学校の概要

学校名	都城市立木之川内小学校		校長名	田口 麻澄	
学級数	6学級	児童生徒数	43名	職員数	13名
教育目標	自ら考え、正しく判断できる力をもった人間性豊かな児童の育成				

## 2 学校運営協議会に関わる組織

### (1) 委員（計7名）・事務局（計2名）

学校運営協議会委員	No.	所属名（役職）	氏名	備考	事務局	役職	氏名
	1	民生委員・児童委員	米吉 春美	会長		校長	田口 麻澄
	2	地域コーディネーター	牛谷 勝郎	地域コーディネーター		教頭	中村 雄三
	3	内村勝博行政書士事務所	内村 勝博				
	4	まんがつか認定こども園	坂口 育代				
	5	宮崎医療管理専門学校	玉利 勇二				
	6	木之川内小学校PTA会長	福田 竜二				
	7	山田小学校校長	岡田 新一				
	8						

### (2) 組織編制

#### 【コミュニティースクール】



## 3 活動報告

月 日	主な活動及び内容
5月14日	・ 第1回木小教育座談会（学校の概要及び経営の方針、地域学校協働本部の進め方について、地域学校協働本部（木小応援団）の本年度の取組）
5月20日	・ じゃがいも掘り支援
5月30日	・ 第1回学校運営協議会（委嘱状交付、学校運営協議会の趣旨、学校の概要及び経営の方針、学校運営協議会年間計画）
7月 2日	・ 町探検支援
7月 4日	・ 学校参観日（授業参観）
7月30日	・ 第1回山田ブロック学校運営協議会（各学校の1学期の取組報告、学校運営協議会報告及び協議、共通実践事項）（※ 第2回学校運営協議会と兼ねる。）
8月 4日	・ 第2回木小座談会（PTA奉仕作業、運動会競技種目、学校分収林）
9月18日	・ 学校参観日（オープンスクール授業参観）
9月26日	・ PTA奉仕作業（地域の方も参加）
10月26日	・ 運動会参加（地域の方も参加）
11月12日	・ 第3回学校運営協議会（1・2学期の教育活動についての報告、学校評価の評価項目、

	学校分収林)
12月4日	・ 持久走大会における交通安全支援
12月18日	・ 第4回学校運営協議会(3学期の教育活動、学校評価結果、意見交換)
1月21日	・ 第5回学校運営協議会(学校評価結果、意見交換)
2月24日	・ 学校分収林及び木之川内ダム見学
3月25日	・ 卒業式参加(地域の方も参加)

#### 4 今年度実施した「熟議」のテーマ(小中合同学校運営協議会を含む)

8月:「運動会の競技種目及びPTA奉仕作業への協力」

- 運動会の競技種目に、地域の方も参加する団技を実施する。(玉入れ・借り物競争)
- PTA奉仕作業に、各地区の公民館から3名程度参加する。

#### 5 学校運営協議会の意見を生かした特色ある取組

##### (1) 学校支援活動

地域コーディネーターによる学校支援ボランティアが根付いている。5月には、1・2年生が生活科の授業として、地域コーディネーターの方の支援を受け、学校菜園でじゃがいも掘りを行った。

また、7月には、1・2年生が生活科の授業として、地域コーディネーターの方の案内による町探検を行い、校区内にある牛舎や駅等について教えていただいた。



【じゃがいも掘り】

##### (2) 教育課程の改善(カリキュラム・マネジメント)

「今後も地域と一緒に子どもたちが地域の一員として取りでほしい」という意見を受け、10月に、5・6年生が総合的な学習の時間に、「みんなで「夢」を語りましょう!」という木之川内の未来について考える学習を行った。木之川内地区がどのような状況にあり、今後どうあればよいかを考える学びの機会となった。



【グループでの話し合い】

##### (3) 地域貢献活動

「学校運営協議会から地域の方々の意見や思いを吸い上げる仕組みが不足している」という意見を受け、5月と8月に座談会を行った。その結果、本年度の運動会では、地域の方が参加する団技が新たに加わり、運動会が盛り上がった。



【木小座談会】

#### 6 学校運営協議会の成果と課題(○:成果 ●:課題)

- 本年度の学校経営に対する評価結果に対して委員から適切な意見をいただき、本校の課題と改善策が明らかとなり、次年度の学校経営の方向性が見えてきた。
- 地域の人たちの学校に対する願いや思いを教えていただき、地域との連携の在り方等に対する理解が深まった。
- 学校での取組が実生活や具体的な活動変容につながっているか検証していく必要がある。
- 学校運営協議会の結果を具体的な改善につなげ、協議会の機能を実感できる運営を追求していく必要がある。

#### 7 次年度の方向性

- 本年度と次年度の学校評価結果を比較・分析し、学校経営に生かしていく。
- 読書冊数を増やし、読書意欲を高める。